

第1回 生駒市総合計画審議会 全体会 会議録（要旨）

1 開催日時 平成25年4月8日（月） 午前10：00～

2 開催場所 生駒市役所 4階大会議室

3 出席者

（委員）加藤委員、中川委員、久委員、梶井委員、楠下委員、久保委員、永野委員、室井委員、井口委員、今任委員、大野委員、竹内委員、生川委員、福島委員

（事務局）山下市長、今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、岡村企画係長、加納企画係員

4 欠席者 森岡委員

5 議事内容

1. 開会

2. 委員紹介

（名簿順に紹介）

3. 会長選出及び会長代理の指名

事務局：会長の選出についてご意見等ございますか。

福島委員：第5次総合計画策定の際にも審議会会長をお務めいただいた中川委員にお願いしてはどうか。

（異議なし）

事務局：中川委員、お引き受けいただけますか。

中川委員：はい。

事務局：会長は中川委員にご就任いただきます。引き続き、会長代理の指名を中川会長からお願いします。

中川会長：知識や経験豊富な久委員にお願いしたいと思う。

久委員：引き受けさせていただきます。

事務局：それでは会長代理は久委員にご就任いただきます。

事務局：恐れ入りますが、中川会長一言ご挨拶をお願いします。

中川会長：今回の審議会では総合計画の後期基本計画の策定を審議することとなる。初心に戻って進めていきたいと考えている。ご協力をお願いします。

4. 諮問

(市長から会長へ諮問書を手渡す)

5. 市長挨拶

山下市長：委員の皆さま、ご多忙の中お引き受けいただきありがとうございます。

本市の総合計画、及びその前期基本計画の策定時は、総合計画審議会の前段として、市民会議でたたき台を作成し、総合計画審議会で議論いただき、案を策定いただきました。議会の議決が長引いたが、無事策定できた。前期基本計画策定時と比べて、総合計画を取り巻く環境が変わってきた。地方自治法の改正により、総合計画基本構想の策定義務がなくなった。他市では基本構想・基本計画・実施計画の3層構造を、基本構想・基本計画または基本構想・実施計画の2層構造にしたり、3つ全てを1本化するなどの対応をされている例がある。生駒市議会は議決の対象を従来の基本構想から基本計画にも広げることを検討中である。前期基本計画期間の間に社会情勢は変わった。今回は、総計のあり方も含めての議論をお願いしたい。計画期間についても、社会変化が激しい中、5年や10年という長期間でよいのか、臨機応変に施策を進めるために、市長任期に合わせてはという考えもある。また、議決の対象になじむような計画にしなければならないという課題もある。

6. 案件

(1) 会議の公開について

中川会長：会議の公開について、事務局より説明願います。

事務局：資料3のとおり公開としてよろしいですか。

(異議なし)

(2) 諮問事項について

①総合計画のあり方について

②後期基本計画の策定について

事務局：(資料4, 5, 6、人口フレームについて説明)

中川会長：ご意見等ございますか。

久委員：今回は、基本構想も含めた総合計画そのものの見直しか、基本計画に限った見直しか。

事務局：事務局としては基本計画の見直しを想定している。

久委員：次回以降どこまで議論したらいいのか。基本構想を見直すのであれば、作り替えのタイミングとしてはもうすでに遅いと思う。基本構想という根本的

なことと、基本計画のあり方とは連動させて並行して考える必要がある。

事務局：基本構想については、今回は中身の見直しは想定していないが、総合計画のあり方を議論する中で次期基本構想のあり方や役割についてもご検討いただきたいと考えている。

久委員：審議会の議論の柱は3点になると思う。

1. 何のために総合計画を作るのか。地方自治法改正に伴い、基本構想の策定義務が廃止されたことにより、総合計画の策定の理由と目的を改めて考える必要がある。
2. 誰のために総合計画を作るのか。交野市は、市民も含めた全ての方針として計画を策定している。市民も総合計画策定に加わるとなれば、市長任期ごとの作り替えでいいのか。
3. 社会情勢の変化を総合計画にどういう形で取り込んでいくか。役割分担では市民、事業者といった区分があるが、最近従来の実業者と消費者という分け方は薄まり新たな区分に変化しつつある。その点についても議論が必要。

以上の3つを含めて、根本的な見直しが必要だ。

中川会長：生駒市の場合、自治基本条例があり、その定めによれば総合計画の策定を不要とするためには自治基本条例の改正が必要になる。議会、行政、市民の3者の関係性についても議論を進めていきたいと思う。前期基本計画では指標等を設定したことで、進行管理による行政改革に大変な効果があった反面、進行管理等に時間と手間がかかってしまった。実施計画レベルで指標を設定する方がふさわしいと考える。基本計画では、具体的な指標ではなく方向性を示す方が良いと思う。

事務局：基本計画のあり方については、次回以降に詳しく議論を進めたいと考えている。

楠下委員：中長期的な視点で考えていきたい。基本構想については、あまり変えなくてもいいと思う。

事務局：今回基本構想の大幅な変更は、議会の議決も経ているので困難だと考える。

中川委員：基本構想・基本計画・実施計画の3層構造について、それぞれを明確に分けて議論を進めていきたい。

③総計進行管理

事務局：(資料7, 8, 9について説明)

中川会長：進行管理は平成24年度を対象に実施する。各委員から一言お願いしま

す。

加藤委員：基本計画については、社会情勢の変化に対応できるようシンプルにしていきたいと考えている。

梶井委員：昨年から参加させていただき、資料の見方も分かってきたので、今回も頑張りたい。

楠下委員：総合計画は市民と協働するためのもの。もっと市民に知ってもらう必要がある。

久保委員：総合計画は計画の策定当初と状況が大きく変わってきている。県内的にはこれから人口減に転ずるということではあるが、生駒についてはリニア中央新幹線の間駅を誘致することや学研北生駒駅付近の開発などを考慮して、まだまだ人口が増えるということ視野に入れて進めていきたい。

永野委員：基本構想の変更に、条例改正の必要があるということに疑問を感じた。総合計画の存在意義についても考えていきたい。

室井委員：これまで総合計画にあまりなじみがなかった。私は、民生活動を皆さんに知っていただくため、様々な場所や方法でPR活動を行っているがまだまだ大変である。その経験をふまえ、この審議会にも活かしていきたい。

福島委員：総合計画の策定義務についての地方自治法上の改正に関して質問がある。法規上、今後は策定に関する条項は完全に無くなってしまったのか。もしくは、代替又は補足するような内容のものへ変わったのか、教えて欲しい。

計画の空白期間は作ってはならないと考えるが、同時に、基本構想・基本計画も実施計画と同様に毎年ローリングして見直して行く余地のあるものとして捉えて行く必要があると考え、今後の議論では意見と提案をしていきたい。

生川委員：これからの行政は多様なニーズに対応する必要がある。人口減についても視野に入れたい。

竹内委員：これまで私が携わった進行管理の検証では基本構想・基本計画など計画の見直しについては議論できなかった。今回の進行管理では平成24年度を対象に、基本構想、基本計画で感じた視点も踏まえて取り組んでいきたい。

大野委員：総合計画がよく分からない理由は、市民が総合計画を知らないからだ。まずは市民に総合計画を知らしめることが大事。誰のために作るかを考えたら、市民の意見を反映させなければならない。市長や議員が変わればやり方も変わる。その点をどう盛り込むかよく考えていきたい。

今任委員：昨年初めて自治会活動をした経験から、今回委員に応募した。第5次総合計画冊子の資料編にある、「市民会議のメッセージ」はいつ出されたもの

か。計画に反映されているのか。

井口委員：この審議会は、市民の意見を直接汲み上げて反映させるものと認識している。進行管理の PDCA サイクルについては良い取組。今後の審議会のスケジュールを早めに知りたい。

久委員：各委員のご意見を聞いたが、まだ認識が共有できていないと感じる。今回は PDCA サイクルの Plan の段階についての検討を進める段階である。ごく一部で決めていくのではなくみんなで決める。みんなで決める場合、どこまで決めていくのか。その基準を決めておかないと話が前に進まないことになる。また、人任せにするのではなく行政全ての職員が PDCA サイクルを意識しているかどうかを念頭に置く必要がある。今回は個別具体的な話ではなく、各委員が全体的な方針について共通の認識を持ったうえで進めていかなければならない。今後の方針についてはしっかり議論を進めていきたい。義務づけられているかどうかによって策定するしないというより、総合計画は市の方向性を決めるために必要なものである。

事務局：各委員からの質問の回答

（福島委員への回答）策定の義務づけの条項は削除されている。代替のものの策定を義務付ける法律はない。

（今任委員への回答）市民会議からのメッセージは平成 20 年 2 月総合計画策定の前段階にまとめたものであり、計画に反映している。

（井口委員への回答）今後の日程：第 2 回全体会は、6 月 24 日（月）10：00～を予定。進行管理は、7～8 月上旬に 3 部会×3 回を予定。

中川会長：現在の基本構想は動かし難いだろう。後期基本計画に議論の対象を絞りたい。進行管理の効果はかなりあったと思うが、基本計画では指標の設定よりも今後の方向性を決めることが大事だと思った。総合計画の役割分担についても議論を進めていきたい。消費者と生産者の区別がつきにくくなっているという話をいただいた。その区別についても皆さんで議論していきたい。Plan 無くして Do はない。これまでも、今もある、納税の負担は軽い方が良いが、サービスの水準は高い方が良いといった論理は成り立たない。しかし税負担が重くサービス水準が向上しないことは行政の怠慢が理由であるとして行政改革が推進されてきたが、それも限界にきており論理破綻しかけている。今後は、市民と行政が協働するという視点で見ていくようにしたい。最後にご意見等ございますか。

福島委員：議事録は早く作成してほしい。

事務局：極力早くし、確認いただく。

中川会長：本日の案件は終了した。以上で第1回生駒市総合計画審議会を終了する。